

(議長)

次に「横山議員」の発言を許可します。

「横山議員」

「横山議員」

お尋ね致します。まず第1番目。

「江差北小・中の一貫教育について」という事です。

ここ数年前からこの一貫教育のあれが北小・中学校において実施されておりますが、これについての評価、これがどのようなになっているか。メリット、デメリットなどですね。これは間違いなく町長の執行方針、それから教育長の執行方針にも「小・中の一貫教育を一層の充実」と「推進していく」と執行方針に書いておりますのでそのようにされると思うのですが、具体的にわかりやすくメリット、デメリットをまず教えて頂ければと思います。

(議長)

「教育長」

「教育長」

北小・中の一貫教育の質問でございました。

まず、以前の体制との相対評価についてでございますけれども、議員も御承知のとおり小・中一貫教育につきましては、平成18年度に教育行政執行方針に盛り込まれて以降、平成21年4月に江差町小・中一貫教育基本構想を取りまとめて22年度から取り組みが実施され、様々な実践が具体的に展開されている状況でございます。

小中学校ならびに先生方におきましては、その実践の中からそれぞれの学校教育や生徒指導において新たな取り組みが実施され、小学校と中学校の文化の違いをお互いの連携により克服しつつあり、従前の体制とは格段の向上が図られているものと評価を致しております。児童生徒の指導にあたる先生方の努力に敬意を払うものでございます。

2問目のメリット、デメリットの質問でございますけれども、小学校と中学校が義務教育9年間で共同することによりまして、より良い児童生徒を育て上げる目標で実施していることであり、その取り組みの全てがメリットと言えますが、具体的に実施している主なものは教科としては算数・数学の9年間のカリキュラムの確立、小中事業交流会、英語の乗入授業、防災訓練などの一体事業、部活動などの体験活動等と共に生徒指導の一貫性の確立などでございます。

デメリットとしては特に無いと考えておりますけれども、他の学校で取り組んでいない事を考えますと教職員の負担が少し大きくなっていくという程度と理解をしております。

3問目の校舎の建設立地の得失などのご質問でございますが、江差北小・中は前身である水堀小・中学校の現校舎以前の時代から廊下で繋がる構造で建設された学校であり、現在の校舎も一体として校舎となっていることから、小中一貫教育に取り組みやすいとの判断で、モデル的な取り組みとしたところがございます。建設立地が良い条件になったと、このように考えております。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

2問目に移ります。「次期、江差中学校改築について」ということです。

整備検討委員会への諮問内容及び検討経過についてそれがどうなっているか。それから将来の小・中一貫校化の検討はということで、まず内容的にあらましを書かせて頂きましたが、これにつきましては今回資料を請求しまして、出ました諮問事項。

これについては、前の議会の時に直接担当課の所に行って「どういう諮問事項なのか教えて欲しい」と言いましたら、「資料請求してくれ」と言われたような諮問で、資料請求してみたらたった3行でした。『江差町立江差中学校を現在地に改築したいので、将来においてより良い中学校教育ができる施設や環境について各般に渡る意見を徴収したいので検討頂きたく諮問します。なお答申は平成24年3月末まで。』ということで、この3行。これなら何もちょっと一言、言ってくれば分かったことなのにと、今思っていますが。

それはそれとして、各いろんな点において整備検討委員会で検討されている事は後ろの資料の意見の取りまとめのところでも分かります。しかし、本当にそれで全部いろんな点からまだまだ検討する事項があるのではないかなというのが、私のこれを見ての感想です。

例えば今1問目でも取り上げた小中一貫教育が効果あるならば、それだって江差中学校において検討する余地があるのではないかなと。それは今の生徒数、今の小学校1年生がそのまま上がっていくと中学3年まで、これも資料出ているようですが、それを見ても50人からせいぜい60人。つまり南小学校それから江差小学校合わせてそれだけの人数になる。そうすると普通、教室は2クラスですか。それを思うと、例えば将来江差の総体人口減る。高齢化も進む。そうすると益々児童数が減るということが確実に予想される訳です。それなら

ば今、中学校を検討される場合には小中一貫校を将来的に設営できる形も考えておくべきではないかな。これは私だけではなく、町の多くのというか、何人からもその意見は聞きました。そういうことは建物・土地の利用、構想全体に渡ることですから、最初にそれを設定していくかどうか。それはつまり町づくり、町の構成をどういうふうな配置にしていくかということが大きな問題になるので、これについては教育長そして町長のお考えもお聞かせ下さい。

(議長)

「教育長」

「教育長」

次期、江差中学校の改築についてのご質問で、整備検討委員会の諮問内容及び検討経過についてでございますけれども、検討委員会は平成23年11月21日に第1回委員会が開催され、町長から今横山議員おっしゃったように『江差町立江差中学校を現在地に改築・整備したいので、将来においてより良い中学校教育ができる施設や環境について各般に渡る意見を徴収したいので検討頂きたく諮問します。なお答申は平成24年3月末までお願いします。』との諮問を致しました。委員長には北大大学院の森教授、副委員長に守嶋江差中学校長を選出後、江差中学校の概況・改築に向けた予定・スケジュールなどの説明の後、江差中学校校舎の現状視察に向かいました。2回目は12月19日でございます、委員会の今後の開催スケジュールの確認、町長からの諮問内容の補足説明、江差中学校長より意見交換のたたき台とする懇話意見交換が実施されました。3回目は1月23日でございます、乙部中学校に視察・研修に向かいその後、意見交換を致しました。4回目は2月6日でございます、検討委員会の中間意見集約と意見交換。5回目は2月27日報告書のたたき台と意見交換の実施をし、今後6回目を3月19日、7回目を3月26日に開催し、町長へ答申する予定を致しているところでございます。

2問目の「将来の小中一貫校化への検討は」とのご質問でございますが、現在の所、市外地における小中一貫校の検討はしておりません。誤解してほしくは無いのですが、小中一貫教育を進める為に学校が北小・中学校同様、小と中が一緒になっていなければならないということはございません。私共の北小・中学校は非常に特異な学校の造り方でございます、小中一貫教育には非常にやり易いという利点はございますが、他の例えば北海道でいきますと三笠。あるいは私達検討するのにご意見を伺った東京都の三鷹市などで、学校と一緒にいるのはありません。今の江差中学校、南が丘小学校、江差小学校。こういう風な所がほとんどということでご理解頂ければと思っております。

しかしながら、現在は検討しておりませんが、小学校と中学校のより密接な連携は非常に重要でございまして、常に江小・南小・江中の教職員の相互交流を実施しておりますし、今後も一層の連携強化を推進したいと考えております。加えて、北小・中学校のいろんな小中一貫教育を進める中でのプラス材料については、前校長さんが委員会の構成員でもございますので、そういう事で今後も徹底して出来ればとこのように考えておりますので、ご理解を頂きたいと思います。

(議長)

町長、今の教育長の説明で宜しいですか。

「町 長」

はい。

(議長)

横山議員いいですか。「横山議員」

「横山議員」

教育長の説明によって、必ずしも一緒の所に居なくてもいいのだと。実際にそういう例が沢山あるのだと、沢山というか幾つかあるのだということは分かりました。

しかし例えばいま具体的に言えば、南小などは1クラス20何人ですか。1学年が。そうですね。そういうような小さい少人数の学校がこれからも続いていくと、段々少なくなっていくのは目に見えている事ですね。そういう所において、少ない人数の所で学校を維持していくのが良いのか、或いは中学校を造るこの機会に将来の町づくりの構想を立てておく、検討しておくという事が、私もある意味では重要な事かなと。将来の経費の面などを考えても、それが経費の低減を期待できるかなと思います。これは町づくりそのものの話になりますので、町長の考えをお聞かせ下さい。

(議長)

「学校教育課長」

「学校教育課長」

今回資料を出しました中にもございます通り、将来にわたって江差町が少子化に向かっていくという事については、どうしようもない状況であると。それ

それぞれの学校も減ってくるという事も見据えた中で、検討委員会の中でも今現在の中学校のみではなく色んな物も含めて、色んな活用策も含めてやれるものということで、資料の後ろの方に中間集約の最後の方だと思いますけれども、現状、それから将来にわたってという部分で、検討委員会の意見も出ております。これらも充分参酌しながら今後、小中学校の在り方も含めて考えていきますし、また地域にコミュニティ施設というイメージの事もかなり意識されているという中で検討委員会、まだ2回ございますけれどもその意見も踏まえながら検討して参りたいと考えております。ご理解をお願いします。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

答弁が小中一貫化を構想するかどうかという返答が見えないので、それについて諮問自身はされてないようですが、内容についてはおおざっぱに3行で大きく諮問している訳ですから、それは検討委員会の中、あるいはその教育委員会の方からかあるいは町からの要請、そういうようなことの検討はされないのか。将来の町づくりな訳です。それから勿論教育の内容にも関係する。それから町全体の費用の財政の問題も関係する。そういうことで、それぞれ検討しておく重要な視点ではないかと思います。もう一度お願いします。

(議長)

「教育長」

「教育長」

小中一貫教育。あるいは小中一貫校。やっぱり意味合いが違うんですね。今、北小・中学校では小中一貫教育を推進しております。さきほど答弁申し上げましたように、小中一貫教育を進めるために必ずしも小学校と中学校がくっついていなければならないということはございません。

ですから横山議員のおっしゃる将来子供が少なくなっていくという中で、江差中学校を中心に南小さん江小さん。よく私も事情は分かります。ですから、今で既に小学校と中学校、市外地の3校は先生方の交流をしながらそういう小・中の連携の強化をしていくという事をさきほどお答え申し上げた所でございます。

ですから将来、小・中一貫教育を進めるかどうかは今後の課題でございますけれども、何れにしても議員もおっしゃるように小学校と中学校の連携という

のは今後、人数が多かろうが少なかろうが強化をしていかなければならない部分でございますので、委員会とすれば色々な形の中でそういう江小・南小・江中の連携を強化するよう、校舎が新しくなろうとも古くなろうとも継続して推進していきたいと。こういう考え方については変わる事はございません。

(議長)

3 問目。「横山議員」

「横山議員」

「A L T の採用について」

私はA L T 制度というのは貴重な国の政策による制度であると思いますので、クドイと言われるかもしれませんが、これについて取り上げるものです。

まずは平成24年度の採用の予算請求はされたのかどうか。教育委員会として。今回の予算書を見るとそれが計上されていないという事ですね。それは教育委員会としてこのA L T 制度に対する評価をどう思っているのか。まずそこをお聞かせ下さい。

(議長)

「教育長」

「教育長」

3 問目でございますが、3 つ目の質問の「A L T の採用について」のご質問でございます。

教育委員会としては、従前からこの問題についての考え方を示しております。けれども、24年度についても予算要求について、要求は致しました。ですが役場総体、全体的な取捨選択の中で予算化に至らなかったという事でございます。

またA L T 制度に対する評価についてでございますが、これも従前から議会答弁いたしておりますが、外国指導助手が居ることは英語の授業だけでなく、日常的に児童生徒が肌で外国人を知り、理解をする上でも大切であると国際理解教育に寄与するものとして、教育委員会としては評価を致しているところでございます。

ですから私共、直接雇用はしていませんけれども、桧山教育局のA L T の活用、あるいは国際交流協会などの関係団体の協力を得ながら外国人と接する機会、あるいは交流の場の拡大に努めているところであり今後も努力をしていきたいと考えております。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

私はその教育長のお考えに全く同感です。

ここ数年、予算要求されているという事は、当然その意義を認めて要求されている事だと思います。それ以前の町側からの説明では、財政問題で財政がきつからやらないのだという事が第1のお答えで返ってきた訳です。子供の教育の事を、財政を理由に、しかもその意義は教育委員会の方でも教育長の方でも認めていることを却下するというか、採用しないというのは、町長の教育に対する基本的な考えが私は納得できない。国の方針で長年採用されている。確かに運用の面においては色々問題があることも分かっています。しかしそれでも管内で言えば、江差町と奥尻町以外の全部の管内が独自にALTを採用して子供に教育のチャンスを与えている訳です。この一番中心になる江差町においてそれをされていないという事は、これは基本的に教育に対する教育委員会の考え方ではなくて、町トップである町長の考えが軽視ということになるのか。単に教育局のあれを利用できるからいいだろうと、そういう問題ではない。他では皆それぞれが子供たちの将来の事を思って、今の事を思ってそういう手立てをしている訳です。もう一度その点について町長自身からのお答えを頂きたいものだと思います。町長自身から。

(議長)

「町 長」

「町 長」

基本的には考えておりません。

(議長)

「横山議員」

「横山議員」

子供の教育が、優先順位が低いんですか。高々前に聞いたあれでは340万～350万位ですか。年間。あるいは300万～400万と言っていた時期もありましたか。前にあれした時は確か340万位と言っておりましたか。それが子供の教育が、優先順位が低いという、その町長の教育に対する認識は大変

私は遺憾であると言わざるを得ないと思っています。終わります。

(議長)

答弁はいいです。

以上で横山議員の一般質問を終わります。